

湘紅会報 2023年3月 第9号

設立 1991年 会員 90名(82.0才) 年2回発行

新代表世話人に相田康宏氏

万歩会 三浦健児氏、総務 斉藤正視氏 新任

昨年12月の世話人会で、大幅な世代交代を図り、2023年3月で、酒井尚平代表世話人の退任、新代表世話人に相田康宏総務、新総務に斉藤正視氏とする方針が承認され、3月の総会で説明の上、決定された。

2023年度の会員90名、平均年齢82才に比べ、新世話人体制は平均年齢74才となった。万歩会部会世話人は有地幸雄氏に代わり、三浦健児氏が就任、会報編集人は第10号から、酒井尚平氏に代り斉藤正視氏となる。

3月21日に鎌倉華正樓で4年ぶりに総会開催し、参加申込者は48名であった。

総会で新年度要覧と会報第9号を配布、郵送される。休部中の囲碁部は廃止する。

2023年度世話人

代表世話人：相田康宏

世話人：

倉上雅彦（ゴルフ会） 三浦健児（万歩会）

川嶋寿彦（湘遊会）

塩川明男（倶会） 宮田 廣（酒悦会）

斉藤正視（総務・会報編集人）

総務から

湘紅会に関する意見、連絡は総務斉藤正視 ms0744s5@gmail.com 宛 お寄せください。

新任にあたって 代表世話人 相田康宏



代表世話人に就任した
あいた
相田康宏です。これまで、事務局、総務として湘紅会活動の一翼を担わせていただきました。ご指名を天命と

心得、努力いたしますので、よろしくお祈りします。

湘紅会では現役時代の上下関係はなく、先輩、後輩すべて「さん」で呼ぶのがルールです。これは32年前に湘紅会を設立された松本俊一郎さんの言葉と伝えられています。同じ地域に住む縁で、ゴルフや野山を歩いているうちに、打ち解けて楽しいお付き合いを続けてきました。

五つの部会は自主的に運営しています。代表世話人は、高齢化、会員のニーズなど考慮し、会全体の調整と方向の検討が役目と思います。私は、新総務の斉藤正視さんとコンビで、伝統を守り、変化には会員の皆さまと共に対応します。コロナ感染症は今年春には、制約緩和の兆しあり、湘紅会は4年ぶりに定時総会を開催できました。

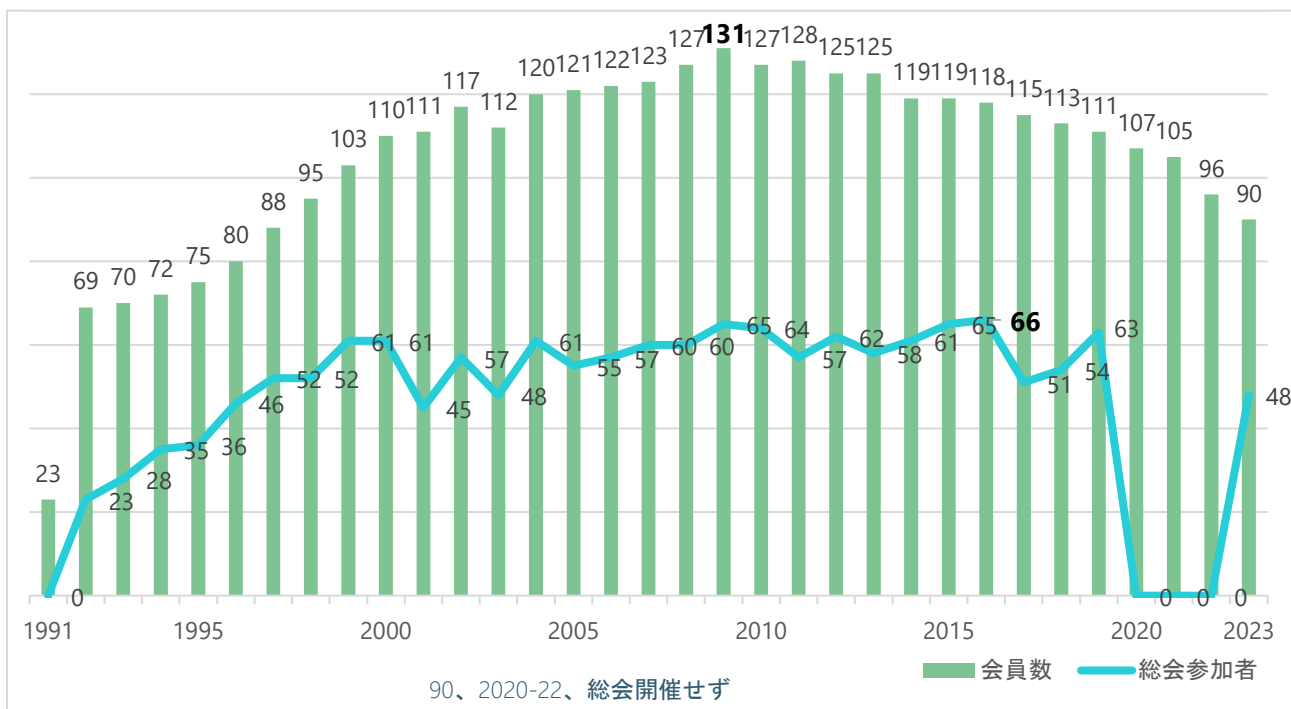
前任の酒井尚平氏は、2018年に山内啓正氏から引継がれ、(1) 高齢化対応で、美術、歌舞伎、落語、音楽を楽しむ「湘遊会」の創設 (2) 交流と広報の「湘紅会報」年二回発行 (3) 世話人の世代交代など、尽力されました。

新世話人会は、しなやかな頭とフットワークで、諸先輩、各年代の会員に、満足いただける多様な活動を実行する決意です。忌憚のないご意見をお寄せください。心からお願い申し上げます。

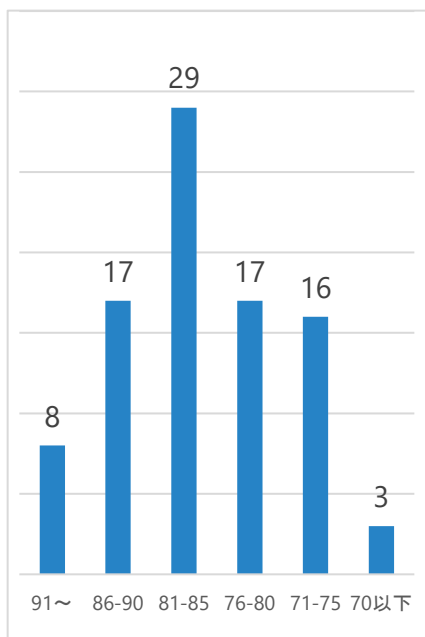
湘紅会現状図解

特徴 (1)高齢化、80才以上6割、(2)湘遊会順調、釣り・囲碁廃部、(3)横浜在住増

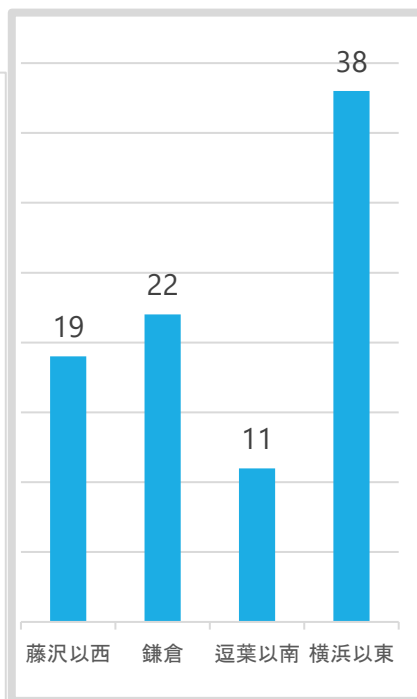
会員数と総会参加者の推移



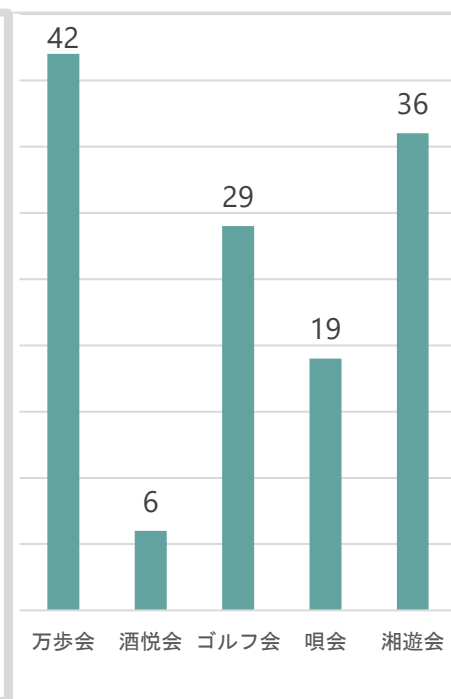
年齢分布 (90名、平均 82.0 才)



地域分布



部会登録者



部会活動

万歩会



(2022年12月：横浜中華街)

コロナ感染症が発生した2020年2月の第287回大倉山梅園から、万歩会の催行が出来なくなりました。コロナ禍が落ち着きを見せた2021年10月に20か月ぶりに鎌倉源氏山周辺を自己責任で実施、11月（長谷寺近辺散策）12月（鎌倉獅子舞紅葉狩り）2022年1月（鎌倉七福神）と催行。その後は3月以降、毎月自己責任で実施、この間延べ約150名が参加、お互いの健康を確認しあってきました。特に12月の横浜散策後の昼食会（横浜中華街順海閣）には19名が参加し、楽しいひと時を過ごしました。

ゴルフ会



(2022年12月：芙蓉CC)

2020年以降、コロナ禍で公式ゴルフコンペを自粛しながら、有志ゴルフ会等を臨機応変に開催したが、昨年12月には久方ぶりに第150回大会(公式)を開催することができました。

高齢会員の退会等により、会員数は減り、現在の実働会員数は29名となりましたが、1950年代生まれの「若手」会員数が6名となり、代替わりが少しずつ進んでいます。ゴルフを通じての会員同士の気楽で楽しい交流を旨としつつ、今年も公式コンペを4回(3/15、7/5、9/27、12/6 いずれも水曜日)開催予定。

湘遊会



(2023年1月：丸紅ギャラリー)

湘遊会は歌舞伎、落語、美術鑑賞に36名が登録されています。2022年7月からの新体制は、コロナ波に留意しながら、10月の横浜にぎわい座での落語、11月歌舞伎、市川團十郎襲名披露公演、1月の丸紅ギャラリー、ポティチエリ特別展鑑賞と実施しました。2023年は、クラシック鑑賞、スポーツ観戦など企画し、第一弾として、3月には神奈川フィルハーモニー演奏会を鑑賞、大編成の生演奏に参加者から好評をいただきました。ご意見を伺いながら楽しい会にしていきたいと思えます。

唄会

誤嚥防ぎに喉を鍛えたい人、単純に歌を唄いたい人、りんどう竜胆の営業に寄与したい人が、月一で細々と賑やか

に集まっております。コロナ予防で人数制限を付けましたが、枠が一杯になることは稀でした。昨年12月の集まりでは、思い入れのある歌に関係づけて人生のくさを披露し合う「そだったのか〇〇！劇場」を開催して2022年の締めと致しました。

酒悦会

鎌倉市周辺でお酒をこよなく愛するメンバーが集い語らう会です。年4回の開催を目指していますが、コロナ禍で中断を余儀なくされました。開催する店によって呑む酒の種類、肴も様々です。メンバーは年齢の割にはよく呑み、気分によっては有志で二次会にも繰り出す程度の余力も残しています。初めての方も歓迎です。

会員随想

これからの万歩会

三浦健児

今期より万歩会世話人代表を務める三浦健児です。

経験の浅い世代の一人ですが、先輩諸氏に引き続きサポートをお願いし、楽しく歩き、終われば楽しく反省



会という伝統を守っていきたいと思います。前任の有地さんのご尽力で、コロナ禍の中、自己判断

で参加頂く催行が続いています。ようやくコロナに対する対応に変化が窺えますが、引き続き注意を怠らぬよう留意し、安全で楽しい会を実施していきたいと思っております。今後のコロナの状況次第ではありますが、

- 1) 少しずつ歩く範囲を拡げる
- 2) 湘遊会イベントとの共催
- 3) 街道歩きや寺巡りなどの要望に応える

など、良い企画を実行していきたいと思っております。是非多くの会員の方々とご一緒させて頂けるよう、また会員増加に繋がられるよう頑張ってお参ります。よろしくお願いいたします。

湘南ボーイ (?)

齊藤正視

新しく総務を担当する齊藤^{まさみ}正視です。ゴルフ会や万歩会を中心に参加しています。湘紅会員の中では、若年層で(昨年、古稀)、腰の軽さを期待されたようです。湘紅会は、各部会活動が中心ですが、今回、新代表世話人の相田さんを補佐し、湘紅会の一体感を



醸成できるよう、十分なインフラを維持したいと思います。ご支援、ご協力をお願いします。横浜市在住ながら、生まれも育ちも相模平野の真ん中、平塚市です。正月恒例の箱根駅伝のTV中継では、戸塚～平塚区間で湘南の清々しい海岸線が映り、感動される方も多と思います。相模平野から見る富士山の姿は、手前味噌ですが、よい距離感で、バランス良く裾野近くまで見ることができ大好きです。ということで、若い頃は、さわやかなモテ男を演出できそうな「湘南ボーイ」を売りにしていました。まあ、今や死語のようですが。ところがある時、「湘南は茅ヶ崎まで」と言われ唖然とした記憶があります。「湘南」の明確な定義は無いようですが、確かに湘南のイメージが強い加山雄三やサザンオールスターズの桑田佳祐ゆかりの地も茅ヶ崎まで。相模川を超えると「西湘」のイメージでしょうか。一方で、1990年代に平塚の車も「相模」から「湘南」ナンバーに変更され、多少溜飲を下げましたが。

「湘紅会」も、会員住所が、発足当初の鎌倉藤沢中心から、神奈川県全域に拡大されました。これからも「湘紅会」の名称は大切にしていきたいですね。

湘紅会に二十五年

橋本周三

湘紅会がここまで発展してきたとは驚くほどで、当初から苦勞を重ね立ち上げた先輩諸氏も驚いていると推察しております。小生が入会させて頂いたのは64歳1998年と記憶しております。参加したのはゴルフ会、万歩会でしたが、先輩諸氏と人生觀を学ぶ良い機会と判断した次第です。



ゴルフ会ではご存じの方もおられると思いますが、当時ゴルフ場の予約を取るのは平日でも、またメンバーでも難しく、その上4~5組を確保するのも苦勞されたようです。現役の方の邪魔にならないようにと芙蓉CCは遠慮し、他のゴルフ場を探し、熱海や千葉といろいろな所でプレーしました。世の中がゴルフブームで、ゴルフ場を確保するために奔走された先輩諸氏には感謝しきれないと痛感しております。

時がたつにつれゴルフブームが落ち着き、芙蓉CCでゴルフが出来るようになったのは佐々木陽一郎さんが支配人になった頃からでしょうか。

鎌倉と私

長沼 徹

昭和24年に横須賀市緑が丘の聖ヨゼフ病院で生まれ、鎌倉の地で育まれて73年。歳をとったせいか、昔を懐かしく思い出します。幼稚園は浄土宗大本山光明寺にあった材木座幼稚園。当時は旧本堂も園児の学び舎でした。昭和31年に鎌倉市立第一小学校へ。鶴ヶ岡八幡宮から伸びる若宮大路一の鳥居の横にあり、健康優良校として表彰されたと記憶しています。毎年10月に光明寺でのお十夜（毎年行われる仏教の行事）があり、境内には遅くまで屋台や縁日、昔はサーカスも出ていて、家族で出かけたものです。夏休みの宿題の絵日記に鎌倉花火のことを描きました。伝統の花火大会であり、特に水中花火は有名で毎

年楽しみにされている方も多いと思います。1985年頃からは毎年8月10日に決まって開催され、会社の仲間たちも泊りがけで来てくれていましたが、狭い海岸に観客が25万人を超え、関西明石での事故もあってか平日開催に変更されました。この3年はコロナで中止になり、お腹にズシ〜とくる花火の音が懐かしく感じられます。昭和37年に鎌倉市立第一中学校へ。材木座光明寺の高台にあります。当時は放課後家に戻ってからもお寺の境内で三角ベースをやって遊ぶ時代でしたが、最近は子供たちの遊び場として提供している寺が少なく寂しい限りです。

昭和40年に憧れの湘南高校に入学。ただ、真面目に勉強した記憶がなく、サッカー部ではないのに朝から夕方までグラウンドで下手なサッカー。大学受験直前も、体育授業チームと暇な？先生と授業をサボっている生徒との連合チームに潜り込んでサッカー。現役で合格するわけがありません。この歳になり、湘南高校は、優秀な人間の集団であったと肌感覚で覚えています。学生運動華やかなりし頃の大学時代は麻雀とボランティアにあけくれ、S49年丸紅に入社、ナイジェリア会社の3年間・米国会社の4年間と新婚時代半年間の菊名住まい以外の66年はずっと鎌倉住まいです。

そして、丸紅最後の3年間は芙蓉カントリー倶楽部に勤めました。鎌倉市内から134号線で稲村ヶ崎を超えますと、伊豆半島・江の島・富士山を一望する最高のドライブコースが通勤経路でした。また、雪の芙蓉カントリーが思い出です。フェアウェイを埋め尽くした銀世界、美しいのですが、ゴルフ場として商売になりません。

キャディーさんを含め従業員総出でスノーダンプを使った雪かきで汗びっしょり。良い思い出



です。足腰を鍛えるようにとの奥方様からの指示もあ

り、できる限り散歩をするように心がけています。伊豆半島に沈みゆく美しい夕陽を望みながら材木座海岸から由比ヶ浜にかけて歩いていると鎌倉に住んでいてよかったと思う今日この頃です。

我老境に入りて郷里を想う 笹原 厚

湘紅会に入会して五年、ゴルフ会で良い仲間恵まれ、楽しんでいる。中にはちよいワル老人も居り、プレー中、口では敵を褒めちぎり心は鬼で手は決して緩めない。泣かされ、時には心身共に深く傷つくのである。昨年、思い立って、一人奥州癒しの旅に出る。着きし所はおしんの里銀山温泉。色濃く残る大正風旅館街。ふらりと故郷に立ち寄りて芙蓉の老人達から受けし屈辱を温泉にて綺麗さっぱり拭い取りたいと、向かうはかの奥の細道は山寺から最上川。芭蕉の最高傑作を目前に其処に身を置き一人静かに感じ入る：

“閑かさや岩にしみ入る蟬の声”

“五月雨をあつめて早し最上川”

故郷庄内でも出羽三山で多くの句を詠む：

“涼しさや ほの三か月の 羽黒山”

“雲の峰いくつ崩れて月の山”

皆様も奥州史跡旅してそこで芭蕉の句碑を見た事あるのでは。藤原三代平泉を訪ねれば、“夏草や兵どもが夢の跡”人生の虚しさ無常を感じず。奥の細道行程約 150 日最上-庄内だけで実に 40 日程の長きに渡り滞在し多くの名句を故郷に残してくれた。最上庄内には芭蕉をして長く滞在させる価値ある何かがあったと言う事か。そこで出会った自然、人など精神的土壌全てが今なお脈々と我に息づく。

遠き地にて郷里を凄しと今更ながら我思う。

俳聖芭蕉様ありがたや！

近頃少し郷土史に触れたくて、郷土直木賞作家藤沢

周平作品、司馬遼太郎街道を行くシリーズ等を読み始める。1 月薩摩に旅し時、岡崎先輩から西郷南州公墓地訪問価値ありとの話しあり。庄内藩と西郷隆盛とは深き関係あり初めて参拝兼ねて訪ねしも大いなる驚きあり。南州公墓地に庄内藩士 2 人の墓が経緯説明表札付きで管理！（下写真）



会津藩が京都市中取締役の時庄内藩は江戸市中取締りを命ぜられ江戸の治安維持に当る。江戸薩

摩藩邸焼き討ちは庄内藩が実行しこれが原因となり鳥羽伏見一戊辰戦争となる。庄内藩は徳川四天王酒井家で徳川直系！戊辰戦争では庄内藩は善戦するも最後新政府へ降伏。しかし庄内藩に対する処分は西郷隆盛の意向で穏便寛大。徳川直属の庄内藩の反逆論強くあるも西郷それを押さえ込む。町の焼き討ちはおろか藩主藩士誰 1 人罰なし。会津藩松平家の処遇を見よ。後日旧庄内藩は西郷隆盛と対面し深く感謝の意を表明。新政府を離脱し西郷は薩摩戻りも全国の旧藩士が慕って集いその中に庄内藩士 2 名おり。西南戦争起こりし時西郷からの“藩に帰れ”の命令断りて参戦西郷と運命共にして遠き薩摩の地に散る。西郷は西南戦争勃発時庄内藩に対し決して新政府には逆らわぬ事厳命。これが庄内藩を守る事になる。西南戦争に対し旧藩旧藩士の参戦一切ならぬと西郷は言う。全責任を 1 人で被る！故郷が今尚穏やかで良き昔の庄内平野、町並み、江戸的家風が残るのも西郷どんのお陰。(藤沢周平作品是非お読あれ)時代に翻弄されるも自分の意思にて西郷どんに従軍し堂々と戦死した庄内藩士に心から祈りた今回の薩摩西郷神社詣であった。良き日々かな！今回の奥の細道詣での機会くれしちよいワル老人、大先輩に深謝そして乾杯！（山形県鶴岡市出身）

湘紅俳壇

令和五年春

春待たず戦場駆ける兵士達

伊賀山欣也

初時雨何事もなく胡坐かく

岡崎誠之助

「穏やかな日々を」それだけの初日記

堂々のおなら一発春近し

湯豆腐やくもる眼鏡の底の味

原 知廣

立春や喜びはまだ藪の中

料峭りょうしょうや巢籠すくももりの日々今もなお

あとがき

春、長谷の華正樓で久しぶりの総会です。

湘紅会報は、2019年から9回発行。活動報告に続き、会員随想を掲載。湘紅会史、神奈川今昔、ゴルフ、音楽、演劇、野球、旅行、人生など。面白く腹かかえる文章あり、俳壇、ギャラリーも定着しました。

私、ゴルフ下手、唄音痴で、万歩会、酒悦会員です。山と酒を好みますが、年取るとしんどくなります。新企画の試みから、湘遊会が誕生。美術展、寄席、歌舞伎、音楽会を楽しんでいます。

印象深いのは、万歩会・湘遊会のコラボ、横浜美術館でルノアール鑑賞後、中華街まで歩いた忘年会でした。

創立者安積弥一郎氏、松本俊一郎氏のお誘いで入会。すばらしい会です。

此度、相田康宏氏に代表世話人を、斉藤正視氏に編集人をバトンタッチします。

ご協力ご支援、ありがとうございました。

華正樓の階段、ご用心ご用心。

湘紅ギャラリー



奥村鑛一郎

静物

湘紅会報 2023年3月第9号

編集人 酒井尚平